

ゆぎょうじ

遊行寺だより



ホームページでも
配信しています

胸ふくらむ春の足音が近づいてまいりました。

だんだんと温かい日が増えてきて、活動的になる方も多いのではないのでしょうか。

ぜひ、写経会や法話会などにも足をお運びください。

◆ 今月の行事予定

・^{しゃきょうえ}写経会【5日(日) 13時】

詳細はホームページ、もしくは写経会のご案内をご覧ください。受付は12時半からです。

終了時間は自由で、どなたでもご参加いただけます。

・^{げつれいほうわかい}月例法話会【23日(木) 午後2時より】

信徒会館にて行います。ご参加は自由です。

当月講師:時宗布教伝道研究所

宮城県登米市 常楽寺 佐々木文海 師

◆ 今月の催事予定

・骨董市【5、19日】

毎月第1日曜日…^{のみ}蚤の市

〈お問い合わせ TEL:090-4416-2168(石田)〉

毎月第3日曜日…ボロ市

〈お問い合わせ TEL:090-2660-6935(中島)〉

* 午前7時より午後4時まで(雨天中止)

・野菜市【1、8、15、22、29日】

毎週水曜日 午前中出店・雨天中止

境内散策

^{ちゅうじゃくもん} ～中雀門～



安政六年(1859)に建立された、遊行寺境内で最も古い建造物です。四脚門で、高さ約6メートル、幅約2メートル70センチ。大棟に皇室との深いつながりを示す菊の御紋、屋根の下に徳川家の家紋である葵の御紋が刻まれています。建立者は紀伊大納言徳川治宝(とくがわはるとみ)です。

1880年の藤沢宿大火の被害は免れましたが、1923年の関東大震災では倒壊しました。その後、そのままの形で再建され、現在にその姿をとどめています。

建築年代が明確な近世建築で、現在も利用されていることが評価され、市指定重要文化財に指定されました。

* 遊行寺宝物館

特別展『遊行寺の交流史』[2月25日(土)～5月8日(月)]

・開館日:毎週月・土・日曜日・祝日

・入館料:500円(小・中学生300円)

“捨ててこそ”

先日、お檀家様から「一遍上人の“捨ててこそ”という言葉はどういう意味ですか」、とのご質問がありました。実は、この言葉は一遍上人ではなく、慕われていた空也上人のお言葉なのですが、説法でも「捨てる」という言葉を多く使われたため、一遍上人は「捨聖」と呼ばれ、“捨ててこそ”のイメージが定着しているのだと思います。

その生涯をしてみると、一遍上人は遊行（全国を行脚し教を説くこと）の途中で妻と子供と決別し、さらに旅路では衣もボロボロ、食も、住居も求めないという衣食住への執着を完全に切り払われた生き方をされました。その生き方はまさに「捨てる」生き方と言えましょう。

ただし、一遍上人は私たちに衣食住を完全に失くさないとおっしゃってはられません。私たちがまず「捨てる」べきものとは、“利己的な衣食住への執着”なのです。つまり、“自分さえ衣食住が満足ならばよい”という考え方をまず捨てる、ということです。そのためには必要以上の衣食住は離れなければなりません。

そして、この「捨てる」教えが、様々な物質や情報、欲望があふれる現代社会において大きな意義を持つのではないのでしょうか。

一遍上人は「捨てる」という教えを通して、私たちが往々にして陥りがちな自己中心的、独善的な考えを諫められ、私たちが縁起の中で深くつながりあっていることを改めて説かれているのだと思います。

縁起とは全ての存在は共につながり、支え合っているという仏教の基本的な教えです。おかしな個人主義が蔓延する現代社会が生み出している様々な苦しみの原因はこの縁起の思想を見失っていることかもしれません。

念仏を通して、縁起や自省の道を説かれた一遍上人の教えを、今一度心に刻む必要があるのではないのでしょうか。

合掌

facebook

フェイスブックでも遊行寺の様子や情報を配信しています。最新記事をお読みいただけますので、ぜひ“いいね！”してください♪

時宗総本山

〒251-0001 神奈川県藤沢市西富 1-8-1

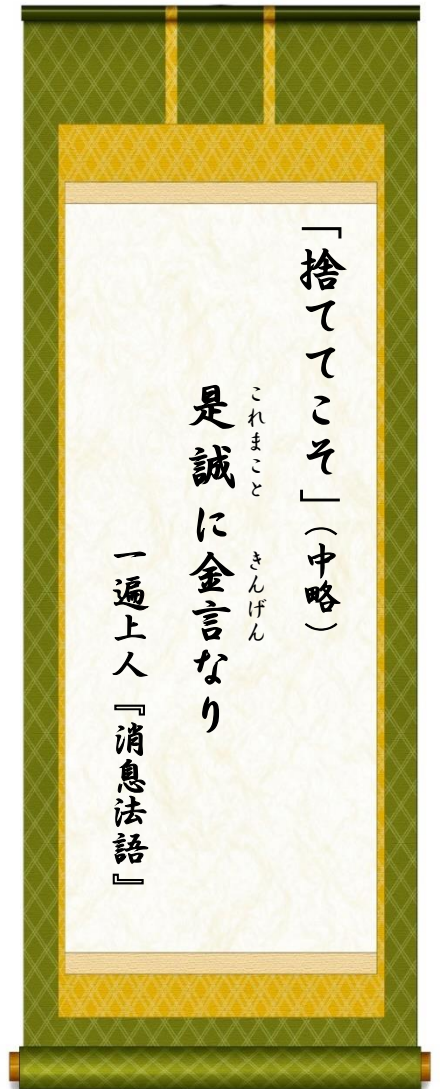
遊行寺

TEL:0466(22)2063 FAX:0466(23)8243

ホームページ: <http://www.jishu.or.jp>

宗祖の

今月のおことば



～一遍上人のおこころ～

念仏を唱える時の心構えを聞かれた空也上人は、「捨ててこそ」とだけおっしゃられた。これは誠に素晴らしい教えで、念仏をする人は心身ともに執着から離れ、すべての境界を捨てて、阿弥陀仏に帰依することが大事なのである。